

部活動などの活躍

令和二年度第1回計算コンテスト満点賞

3年

(1組) ○○○○くん、○○○○さん、○○○○さん

(2組) さん

2年

(1組) ○○○○くん、(3組) ○○○○くん

1年

(1組) ○○○○くん、○○○○くん、○○○○さん、○○○○さん、○○○○さん、

さん、○○○○さん (2組) ○○○○くん、○○○○さん、○○○○さん

(3組) ○○○○くん、(4組) ○○○○くん、○○○○くん、○○○○さん

(5組) ○○○○くん、○○○○くん

笑顔がもたらす効果～松田校長先生～

その1. 免疫力アップ

笑いや笑顔には、ナチュラルキラー細胞という免疫細胞を活性化させ、免疫力をアップする効果があり、既に病気の予防に生かす取り組みも広がっています。笑えるテレビ番組や映画を観るなどして、ひとりで笑っていても効果的です。つくり笑いでも、口角をあげて微笑んでいるだけで、表情筋の動きは脳に伝わるためひとりで過ごす時間に免疫力を高めることができます。したがって人と笑顔で向き合う(笑顔で挨拶を交わす)ことでも、お互いの免疫力がアップすることになります。ムスツとしていたり無表情でいるのは、せつかくの免疫力を高める機会を逃しているとも言えます。

笑顔を決やさずにいることが、健康や命を守ることに繋がるといっても過言ではありません。

南千住マイスターのコーナー

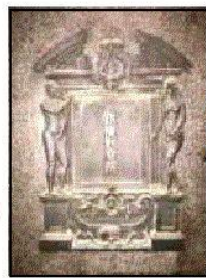
玄白は晩年、回想録「蘭学事始」を著し、当時では長寿の85歳の人生を全うしました。

玄白は晩年、回想録「蘭学事始」を著し、当時では長寿の85歳の人生を全うしました。

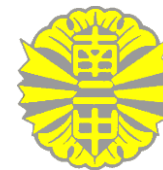
南千住と歴史上の人物 その2 『解体新書(1) 杉田玄白』

南千住の回向院には「観蔵記念碑」という石碑があります。この石碑は、江戸時代、オランダの医学書「ターヘル・アナトミア」を翻訳し、あの有名な「解体新書」を発行するために行われた「腑分け(人体解剖)」がこの場で行われたことを記念してつくられたものです。この解体新書を発行したのが「杉田玄白」です。玄白は、江戸牛込で享保18年(1733年)9月13日に生まれました。家は若狭国(わかさのくに)小浜藩(現在の福井県)の医師で、そのため青年期には医学修行を始めます。その後小浜藩の藩医となり、父が亡くなると、家督と待医の職を継ぎました。

玄白は明和8年(1771年)、オランダの医学書「ターヘル・アナトミア」に出会います。本文は読めなかったものの図版に目を引かれます。京都で行われたとされる腑分けの資料と驚くほど一致していました。このことが当時医学界で信じられていた五臓六腑説に疑問を抱くきっかけになりました。そして志を同じくする蘭学(オランダの学問)仲間とともに腑分けを自分たちの目で確かめようと決意します。当時人の遺体にメスを入れることは厳しく禁止されていましたが、幕府の許可を取り、前野良沢らと一緒に千住小塚原の刑場で腑分けを行いました。人体解剖は蘭書(オランダの書物)の正確性を証明し、玄白は、この医学書を翻訳しようと考えました。辞書もなにもなかったこの時代では大変な困難でした。翻訳が不完全な部分もありましたが、玄白は医学の発展のために「解体新書」を発刊したのでした。この医学書のおかげで、日本の西洋医学はめざましく発展します。玄白も将軍に良薬を献上したり、優秀な外科医として毎年千人以上を治療したと言われています。



小塚原回向院 観蔵記念碑



学校だより
令和二年7・8月
第107号
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

南二中 緊急事態宣言!

校長 松田 公好

7月13日(月)朝、放送朝礼の形で校長より南二中としての緊急事態を宣言しました。以下は話の概略です。

新型コロナウイルスはいまだに未知のウイルスであり、ワクチン、有効な薬がまだできていない。若者も感染しており後遺症で悩んでいる人もいます。先週荒川区内で小学生児童1人、園児1人の感染が判明した。他県、他区でも先生や生徒の感染が判明し多くの人がPCR検査を受け自宅待機している。(兵庫県や文京区、札幌、横浜の例)自分も含め周りにも無症状の感染者がいることを想定して行動すべきである。(成田空港で入国者20人全員が無症状の感染者)

この事態はいつ南二中で起きてもおかしくない。南二中の生徒、教職員、とそれぞれの大切な家族を守るため、ここに緊急事態を宣言する。本気でこれから言うことを守ってほしい。

- 自分や周りが感染しないために特に避けるべき行動
 - ・近距離 対面しての会話 特にマスクなしの時(給食時など)
 - ・友達とくっついてじゃれあう
 - ・大声を出す→飛沫がその分とおくまで飛ぶ
 - ★塾や習い事、遊ぶときなど校外でも意識を!
- 校内に持ち込まないために登校を見合わせるべきパターン
 - ・症状がある。(発熱、咳、だるさ、味覚嗅覚異常)
 - ・身近に感染者、濃厚接触者がいる

この日さっそく2年生が感想を書いてくれましたので、その一部を紹介します。「誰でもかかっている可能性があるということを意識して、一人一人気を付けていかなくては、コロナにうちかつことはできないと思った」「自分たちは2年生として、この独自の緊急事態宣言を率先して引っ張らなければならないと思った」「色々制限されるけど『本当はしなくちゃいけないことだったな』と再確認できました」「今は本当にみんなが協力していかなければいけない時期だと改めて感じた」「無意識に友達との距離が近くなってしまっている時があるから、そういうところを見直していこうと思う」

自分のこととしてしっかり受け止めることができる生徒がたくさんいることに、改めて南二中の生徒のたくましさを感じました。

南二中
緊急事態宣言発令中

絶対に避けよう

近距離での会話

対面での会話

マスクなしの会話

じゃれあい、大声

こんな時は登校を見合わせよう

症状がある

※発熱、咳、だるさ、味覚・嗅覚異常

身近な人が感染者または濃厚接触者

わたしたちの新しい日常

休校が明け、本格的な学校生活が始まって、2カ月が経とうとしています。登校時、校舎に入る前に必ず通るのが、靴の裏を消毒するための大きな玄関マットです。席にカバンを置くときも必ず手洗い。念入りに手指を洗います。朝の学活で発熱や倦怠感の有無などを調べる健康観察を行ってから、授業がはじまります。少人数や実技教科で教室を移動するときは、共有する手すりやドア、スイッチなどに触れないよう、注意喚起の表示がされ、また、同じ教室をつづけて使わないよう時間割などが配慮されています。同じ教具を使う場合は使用の前後で手指の消毒を行っています。給食は、全員が同じ方向を向いてもくもくと食事します。以前のようないやいややマスクなしの会話はほとんど見られなくなりました。それぞれが感染予防を意識しながら学校生活を送っています。最近になって梅雨も明け、昼休みの校庭から、元気にボールで遊ぶ歓声が聞こえてくるようになりました。部活動も1年生が入部し、放課後の校内に活気が戻ってきました。新しい日常の中で、勉強に、クラス活動に、部活動に日々勤しみ楽しんでいきます。



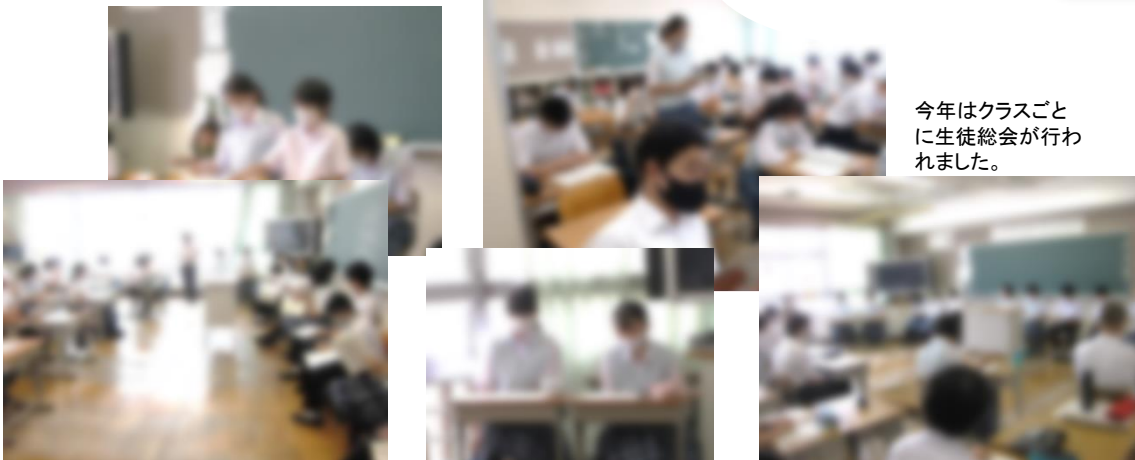
第32期 前期生徒総会

今年度の生徒総会が7月10日(金)6校時に行われました。これまでは全校生徒がアリーナに集まり、議長団の進行で行われていましたが、今年はクラスごとに、2日に分けて実施しました。7月1日(水)には、生徒会本部と各専門委員会が活動方針や具体的な活動報告などをまとめた議案書の内容について、質問や意見を交わす議案書討議が行われました。このとき上がった疑問や賛成意見、反対意見に対して学級委員や専門委員会の委員が回答をしていきました。その場で回答できなかった質問や多くのクラスから寄せられた賛成・反対意見は、その後開かれた専門委員会で十分検討され、質問には明確な回答、賛成・反対意見は実行・修正意見となって、それぞれの専門委員から7月10日に報告されました。各クラスでは、教室の前後で専門委員とその他の生徒に分かれ、改めて協議を重ねた生徒会本部、各委員会の活動方針・活動内容が報告され、全員の承認が得られました。全校生徒が一堂に会することはできませんでしたが、ひとりひとりの生徒が南千住第二中の一員としての自覚を持ち、より良い学校生活をつくっていくための活動に参加しているという意識を持つ大きな機会となりました。



手作りのシトラスリボン

今年はクラスごとに生徒総会が行われました。



シトラスリボン運動

南二中緊急事態宣言を受けて、校長先生の呼びかけで生徒会本部の皆さんを中心に「シトラスリボン運動」が本格的にはじまりました。この活動は新型コロナウイルス感染者やその家族、そして昼夜を問わず危険にさらされながらPCR検査や感染者の治療に携わる医療従事者への偏見や差別をなくし、感謝と思いやりの気持ちを表すものです。愛媛県からはじまった活動は全国に広がりつつあり、賛同者はシトラス(柑橘類)色のリボンを身につけて決意を表明します。南千住二中では、7月末に生徒会が「南二中シトラスリボンプロジェクト」をスタート。生徒の皆さんに、次の3つの決意を呼びかけました。

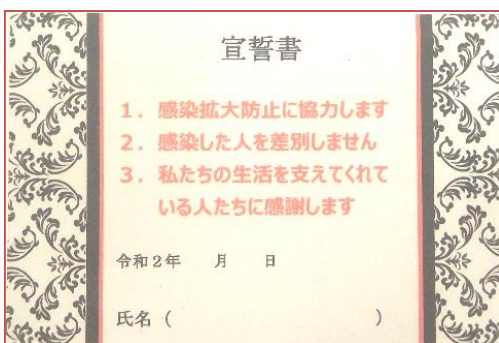
1. 感染拡大防止に協力します。
2. 具合が悪くなった(感染した)人を差別しません。
3. 私たちの生活を支えてくれている人たちに感謝します。

シトラスリボンの3つの輪は、この3つの決意を表しています。

生徒会で1本ずつリボンを手作りしました。



8月には全校生徒に宣誓書が配布され、3つの決意に賛同した生徒は署名し、決意表明して、このプロジェクトへの参加がはじまりました。賛同者の人数は、1階ホールに掲示され、毎日更新されます。その数は、8月6日現在で全校生徒のおよそ半分に上り、今も増え続けています。リボンは生徒会本部とスーパーレスキュー部の皆さんが放課後の時間を使って1本ずつ手作りにしています。リボンの配布もはじまって、少しずつですが、カバンや文房具など身のまわりのものにつけている生徒が校内で見られるようになりました。東京都の感染が拡大する一方の現在、いつ南二中に感染者が出てもおおかしくありません。その時に備えて、今大切なのは、「適切な対応ができる」ことです。ひとりひとりが感染拡大防止に努めるのはもちろん、感染は誰にでも起こりうるものとして、感染してしまった人への思いやりを持ち、感染した人が安心して治療に取り組むことができる環境づくりを目指しています。南二中は「コロナに負けないたくましい学校」です。



1階ホールの掲示板